

大阪府岳連 無雪期レスキュー講習会 記録

■日時：2019年9月29日（日）9：00~16：00

■メンバー：応用コース参加：西川（記録）、基礎コース参加：平山さん

縦走コース講師：中嶋さん、基礎コース講師：小林さん

■山域：百丈岩

■カテゴリ：無雪期レスキュー

■概要：

I. トップをビレイ中に滑落設定で、事故脱出から、登り返し、解除懸垂の一連の流れ

II. セカンドをビレイ中に滑落設定で、ディスタンスブレーキで降ろすまたは、引き上げシステム

■詳細：

I. トップをビレイ中に滑落設定で、事故脱出から、登り返し、解除懸垂の一連の流れ

①自己脱出の確認

- ①テンションがかかっていない側のロープを手繰り寄せ、2本のロープのビレイデバイスで屈曲部を片方の手でしっかり抑える。
- ②片方の手で2本のロープをビレイループに通し、通したロープ輪から2本のロープを引き出し、クライマー側のロープにオーバーハンドノットをして、すっぽ抜け防止にカラビナをかける。
- ③両手を放して、テンションがかかっている方のロープにフリクションヒッチで支点のマスターポイントにつなぎ、クライマーの荷重を支点側に移す。
- ④ビレイヤーのビレイシステムを全て解除する。



①ビレイデバイスを片手で抑える



②ビレイループにロープを仮固定



③フリクションコードで荷重を移動



④ビレイシステムを解除

②登り返し

- ①テンションのかかっている側のロープにアッセンダーをつけパスとつなぎ、バックアップでテンションがかかっている側のロープにフリクションコードをつけてビレイループとつなぎ登り返す。
- ②登り返して、要救助者の少し上あたりに懸垂支点を構築。
- ③テンションのかかっている側のロープの末端部にテンションがかかってもほどこやすいポーラインオンアバイトで懸垂支点と接続。



①フリクションヒッチを作り登り返し



②懸垂支点の構築



③ポーラインオンアバイト

③振り分け介助懸垂

- ①懸垂のパスでの振り分けは自分側を長くし、要救側を短くする。
- ②フリクションヒッチでバックアップを作り、要救のすぐ近くまで下降する。
- ③懸垂用のパスに要救のビレイループと接続し、要救のパスを自分のビレイループに接続した後、全てのロープの外側からナイフの刃を外側に向け要救につながっているロープを外側に向けて切る。
- ④要救を自分の膝上に乗せるように、解除懸垂で下降



①パスの振り分けは自分側を長く



②バックアップ



③パスで要救とつなぐ



④要救を膝の上に乗せ下降

II.セカンドをビレイ中に滑落設定で、ディスタンスブレイキで降ろすまたは、引き上げシステム

①ディスタンスブレイキを使って降ろす。

- ①要救側のロープにフリクションコードをつなぎカラビナをかける。支点側にもカラビナをかけて、この2つのカラビナ間にロングシュリングで8の字を描きながら巻き付ける。(ビナ8)
- ②ビレイデバイスの支点より高い位置の支点にカラビナをかけ、ロープを折り返す。
- ③支点ビレイからロープを折り返しているカラビナを支点に変え、ビナ8を解除して、要救を降ろす。



①フリクションコードにビナ8



②高い位置の支点に折り返す



③支点ビレイポジションを変更して降ろす

②引き上げシステム

- ①1/1システム：ロープをビレイデバイスを使ってカラビナを使って、支点と接続。カラビナと要救側のロープにフリクションコードでつなぎ逆流防止を作る。折り返したロープにフリクションコードでビレイループとつなぎ、体重をかけて引き上げる。
- ②1/3システム：要救側のロープにフリクションコードとカラビナをかけ、引手側のロープをカラビナにかけて、引き上げる。これをさらに上部の支点でカラビナに折り返すと体重をかけて引き上げやすいが、摩擦が加わる為。それほど軽くはならない。
- ③1/5システム 1/3システム引手側のロープをまたフリクションコードにつなげたカラビナで折り返す。



①1/1システム



②1/3システム



③1/5システム

■感想・反省

大阪府岳連のレスキュー講習会も「積雪期レスキュー」「沢レスキュー」に続いて、3回目の応用編の受講となった。今回は岩登り中のレスキューで、滑落者を安全なテラスなどに降ろす、または引き上げる為の具体的な方法を学んだ。ダブルロープの1本で要救を確保し、もう1本で登り返し、懸垂下降用で使う。一つ一つ確実に安全に行う上で、システムの理解はもとより繰り返して行う必要があることを感じた。今後もシーズン毎に会でのトレーニングなどを繰り返して行いたい。